はじめに　食べる喜びをともに享受する ―摂食嚥下障害を乗り切るための実践書―

本書の初版は2017年に発刊していますが，おかげさまで高い評価を得ながら刷を重ねてきました．このたび，読者の期待に応えるべく，新たな知見・評価法・手技など加えてこの改訂第2版を制作いたしました．

「目の前の食事を食べたくても食べられない」，患者さんのその辛さ，悲しさは計り知れないほど大きなものだと察します．本書は嚥下障害をもつ患者さんの苦しみを少しでも改善できればと願い，私たちの持てる力を結集したものです．

概要は，第1章「摂食嚥下機能の基礎知識」では嚥下のメカニズムとプロセスを解説し，嚥下障害の原因や病態を詳しく解説しました．第2章「摂食嚥下機能の観察と評価」では摂食嚥下機能に関与する神経生理学的アセスメントと嚥下障害のスクリーニングなどについて解説し，嚥下造影検（VF）や嚥下内視鏡検査（VE）についても詳しく述べました．第3章「摂食嚥下リハビリテーション」では間接訓練，直接訓練を詳述し，呼吸法や排痰法も加えました．気管カニューレを装着した状態でリハビリテーション病院に転院されてくる患者さんがいますが，その抜去に向けては慎重なアプローチが必要となりますので，本章では気管カニューレとその抜去に向けたトライアルについて詳細を述べました．口腔ケアに関しては，オーラルフレイルと合わせて機能的口腔ケアの在り方を説明しています．

個々の重要な項目には動画をつけています．二次元バーコードにアクセスしていつでもどこでも，それを視聴できますので，知識を深めながら臨床ですぐに応用できるものと思います．

ページをめくっていただけるとわかるように，内容は深く，ビジュアルにわかりやすく解説していますので，リハビリテーション医療を志す学生はもちろん，現場のセラピスト，看護師，医師に及ぶまで，広くお役に立てると自負しています．

口から食べられる，ということは心身の活動性を促し，生きていくことへの基盤となるものです．おいしいものをおいしく食べられることの喜びを患者さんと私たちがともに享受する，本書がその一助につながれば，と願っています．



初版の時から長期にわたり出版に関わってくださっている（株）Gakkenの黒田周作さんには心より感謝しています．編集アシスタントの大内ゆみさんや鈴木優子さんにも大変お世話になりました．この場を借りてお礼申し上げます．

2026年10月吉日

著者を代表して

稲川 利光

Webで見られる付属動画の使い方（トータル約100分）

●動画でわかる摂食嚥下リハビリテーション

お使いのブラウザに，下記のURLを入力するか，右の2次元コードを読み込むことで，メニュー画面に入ります．希望の動画を選択し，動画を再生します．または，動画が収録された手技のページにある2次元コードを読み込んでください．

●OSのバージョン，再生環境，通信回線の状況によっては，動画が再生されないことがありますが，ご了承ください．
●各種のパソコン・端末のOSやアプリの操作に関しては，弊社ではサポートいたしません．
●通信費などは，ご自身でご負担ください．
●パソコンや端末の使用に関して何らかの損害が生じたとしても，自己責任でご対処ください．
●動画の配信期間は奥付に示すとおりですが，予期しない事情により，その期間内でも配信を停止する可能性があります．
●2次元コードリーダーの設定で，OSの標準ブラウザを選択することをお勧めします．
●動画に関する著作権はすべてGakkenにあります．

※閲覧環境：
●パソコン
（WindowsまたはMacintosh）
●Android OS搭載のスマートフォンまたはタブレット端末
●iOS搭載のiPhone/iPadなど

動画の一例


■嗅覚の検査


■味覚の検査


■反復唾液飲みテスト（RSST）


■嚥下造影検査 VF　水飲み


■口腔器官の運動（口唇）


■前舌保持嚥下法


■上部僧帽筋の検査


■頸部回旋


■呼吸介助法

■動画収録タイトル一覧（約100分）

第1章　摂食嚥下機能の基礎知識
2　摂食嚥下のメカニズムとプロセスモデル
摂食嚥下のメカニズム
プロセスモデル
第2章　摂食嚥下機能の観察と評価
1　フィジカルアセスメント
嗅覚の検査
視力の検査
視野の検査
対光反射の検査
眼球運動・眼振の検査
輻輳反射・調節反射の検査
顔面感覚の検査
顔面筋の検査
聴力および聴覚の検査
味覚の検査
軟口蓋・咽頭後壁の検査
舌の動きの検査
上部僧帽筋・胸鎖乳突筋の検査
2　摂食嚥下機能のスクリーニング
頸部触診
頸部聴診
反復唾液飲みテスト（RSST）
改訂水飲みテスト（MWST）
水飲みテスト
フードテスト（FT）
3　嚥下造影検査と嚥下内視鏡検査
嚥下造影検査　VF　健常例
嚥下内視鏡検査　VE　健常例
第3章　摂食嚥下リハビリテーション
2　間接嚥下訓練の実際
深呼吸
首の運動（首を左右に倒す運動）
首の運動（首を横に回す運動）
首の運動（首を前後に倒す運動）
首の運動（首を回す運動）
首の運動（首を伸ばす運動）
肩の運動
体幹・胸郭の運動
口周りの運動
舌の運動
呼吸・発声練習
「パ」「タ」「カ」の発声練習
口すぼめ呼吸
のどのアイスマッサージ
冷圧刺激
プッシング・プリングエクササイズ
頭部挙上訓練（shaker exercise）
嚥下おでこ体操
口腔器官の運動（口唇）
口腔器官の運動（舌）
口腔器官の運動（頬）
嚥下反射促通手技
メンデルソン（メンデルゾーン）手技
バルーン法
ブローイング訓練
前舌保持嚥下法
歌唱訓練
3　直接嚥下訓練の実際
直接訓練に用いる姿勢（体幹角度調整リクライニング・頭頸部の位置）
スライス型ゼリー丸飲み法
食形態の調整
嚥下の意識化
交互嚥下
複数回嚥下・反復嚥下
嚥下後の発声・咳嗽
頸部前屈
うなずき嚥下
頸部回旋
一側嚥下
声門越え嚥下・息こらえ嚥下
4　食事摂取・食事姿勢・食形態
嚥下体操用のDVD
5　呼吸理学療法
呼吸介助法